

■若泉敬 国際政治学者。沖縄返還交渉に隠密活動し核密約で実現するも、良心さいなまれ続け、自決。

わかいずみけい

海軍軍縮条約1930＝ 福井県今立郡服間村で、篤農家若泉喜助・マツエの長男に生まれる。

日中戦争始・1937＝ 7歳：服間小学校の服部分校に入学。

第二次大戦始1939＝ 9歳：

日米開戦・・1941＝11歳：
・・・・・1942＝12歳：卒業し、服間国民学校高等科に入学。奈良の樞原神宮へ修学旅行。

年金+総武装 1944＝14歳：卒業し、福井師範学校予科に入学。同郷の根谷ひなをと親しくなる。

敗戦・・・・1945＝15歳：米軍機による福井大空襲を体験。

新憲法公布・1946＝16歳：修了し、本科男子部に進む。

樞東裁判決・1948＝18歳：福井大地震を体験。

三大事件・・1949＝19歳：卒業し、上京して、明治大学政治経済学部に入學。

朝鮮戦争始・1950＝20歳：東京大学法学部(旧制)に入学、アンチ全学連の{学生土曜会}発足メンバー。明大は退学。

独立回復・・1951＝21歳：*{朝日新聞}の懸賞論文に応募した「わが国の現状と社会保障のあり方」が入選。

メデー事件・1952＝22歳：_{毎日新聞}に寄稿(学生運動批判)。「芦田均日記」に登場。ニューデリーでの国連アジア学生会議に出席、

TV放送始・・1953＝23歳：_帰途ビルマ訪問、「ビルマの対日感情」を総領事館に提出。尊敬する大山岩雄に勧められ、大林健一の筆名で「独立インドの理想と現実」刊行。国際学生会議参加を兼ねてヨーロッパ旅行。

自衛隊発足・1954＝24歳：政治学科を卒業し、保安庁保安研修所教官(助手)となる。_筆名で「共産主義との平和共存は可能か」刊行。

55年体制始・1955＝25歳：ロンドン大学大学院に留学、インド人経済学者マハジャンと親交、

なべ底不況・1957＝27歳：初めて渡米し、カリフォルニア州リバーサイドで講演後、留学を終え帰国。

イスタンブール・1958＝28歳：_土曜会機関誌{時代}に「国の安全と平和」「イギリスの国防政策」寄稿。

美智子妃・・1959＝29歳：福井県初の女性弁護士となっていたひなをと結婚。{経済往来}の座談会「若い力は訴える」に参加し、別冊「安保改訂問題」に執筆。_{時代}巻頭論文「政治をいかに立て直すか」。

安保闘争・・1960＝30歳：長男が誕生。祖母が死去。_米ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究所へ研究留学。M. マンスフィールド上院議員をインタビュー(以降、D. アチソン、W. ロストウ、J. レストン、W. リップマンらも)し、

タイタイ病始・1961＝31歳：_{中央公論}に「オピニオン・リーダー会見記」発表。ロストウ国務省政策企画委員長と面談後、帰国復職。

東京リビック・1964＝34歳：_英戦略研究所年次大会「アジアにおける紛争と共存」に出席し、モスクワ経由で帰国。

大学紛争始・1965＝35歳：_ロストウ来日し、再会。ハーバード大学での国際会議「中ソ対立と軍備管理」に日本から唯一人招かれる。

いざなぎ景気1966＝36歳：3日連続のNHKテレビ討論「日中関係はどうあるべきか」に出席。{中央公論}巻頭論文に「中国の核武装と日本の安全保障」。退職し、_開学2年目の京都産業大学世界問題研究所教授に就任、東京勤務。吉出茂元首相インタビューし{中央公論}掲載。ワシントンでキッシンジャー教授、マクナマラ国防長官。ジョンソン大統領と会見し、{中央公論}に「マクナマラ国防長官会見記」。核軍縮平和外交につき佐藤首相に意見具申。

美濃部都知事1967＝37歳：ニューデリーでの国際会議「アジアの平和と安全保障」に参加。{中央公論}巻頭論文「核軍縮平和外交の提唱」。欧米を回り、核拡散防止条約につき意見交換。佐藤首相に安全保障問題意見具申。ロンドンでA. トインビーに京都産業大学での講演依頼、来日の際は伊勢神宮案内。日米関係民間会議(下田会議)参加。*福田自民党幹事長から「沖縄問題」での協力を求められ、沖縄の復帰問題研究会の招きで訪沖後、佐藤首相の公式特使として隠密裏に渡米し、日米首脳会談に非公式に関与。以後、キッシンジャー大統領補佐官と折衝。

震ヶ関ビル・1968＝38歳：次男が誕生。「日本の核政策の四本の柱」策定に関与。第1回沖縄基地問題研究会に委員として参加。アメリカでの沖縄の地位に関する国際セミナーへ大浜信泉らと出席。ジョンソン大統領に面会し、ラスク国務長官と会見({文藝春秋}掲載)。パリでレーモン・アロンと会見し、{中央公論}に「学生権力と現代文明」。

全共闘ビーク・1969＝39歳：以後2年表の顔として、中央教育審議会臨時委員。米誌に「Japan beyond 1970」寄稿。来日したロストウ大統領特別補佐官接待し、日米首脳間の極秘チャネルを示唆される。佐藤首相と頻繁に面談。ワシントンでハルベリから有事核再持ち込みについての「秘密了解事項」の示唆を得る。_日米首脳会談実現、成功を聴いて、早晩の靖国神社で慟哭。沖縄へ家族旅行。

大阪万博・・1970＝40歳：「繊維問題」につきキッシンジャー補佐官から国際電話、以後、佐藤首相と頻繁に面談。ブルッキングス研究所での国際会議「東アジアにおける米国の安全保障の役割」に参加。ロンドンでトインビーと1週間の対話し{毎日新聞}に連載され翌年単行本に。京都産業大学世界問題研究所所長となる。

ドミノック・・1971＝41歳：佐藤首相と頻繁に面談し、繊維問題でのキッシンジャー補佐官との会見内容も報告。

日中国交回復1972＝42歳：{朝日新聞}{週刊ポスト}等で若泉の役割に言及。全米テレビ討論番組「アメリカは「安保」を廃棄する」で安保肯定論の立場から発言。佐藤・キッシンジャー非公式会談に同席。*佐藤が退陣し、特使終わる。

石油ショック1973＝43歳：米誌に「Japan's Role in a New World Order」寄稿。父を伴い佐藤前首相を訪問したほか、なお面談多数。

角栄金脈辞任1974＝44歳：シンガポールでの国際会議に参加し、帰途ジャカルタで「1月15日事件」目撃。なお佐藤前首相と面談続く。翌年にかけて米ウィルソン国際学術研究所客員研究員。米誌に「Japan's dilemma To act or not to act」寄稿。ホワイトハウス訪問し、日米首脳会談の密約場所だった小部屋を垣間見る。

クアランプール事件1975＝45歳：トインビーが死去。佐藤前首相に資金援助要請したが、直後に、_佐藤が死去。

田中角栄逮捕1976＝46歳：英ケンブリッジ大学訪問について、故トインビー墓参、帰途、ソ連ハバロフスクの日本人墓地参拝。

JALハイジャック・1977＝47歳：米誌に「Consensus in Japan」寄稿。

成田衝突・・1978＝48歳：{世界週報}で全方位平和外交を提唱。

革新大敗北・1979＝49歳：{世界週報}で大平新内閣の外交論「目的地なき航海」を「指針ある航海に変えるよう提唱。」

貿易摩擦始・1980＝50歳：_故佐藤邸で「佐藤日記」中、自らが関わった期間を閲覧後、福井県鯖江市の新居に隠棲、京都産業大学も本来の京都勤務となる。父が死去。マンスフィールド米大使初来宅後、ボリアンスキーソ連大使も来宅。

・・・・・1981＝51歳：_ブリー東独大使夫妻、コータッチ英大使夫妻、ミラーニュージーランド大使来宅。

中曽根内閣・1982＝52歳：文庫版「未来を生きるトインビーとの対話」刊行。_大使代理でヒッチコック米大使館国際交流局長来宅。

デイズユーブ・1983＝53歳：_コータッチ英大使夫妻、ロストウ大統領特別補佐官夫妻来宅。

・・・・・1984＝54歳：_ブレッティ西独大使夫妻、ババシンスキーポーランド大使、ベンヨハナンイスラエル大使夫妻来宅。

ジャンボ機墜落1985＝55歳：_弁護士フル活動中の妻が沖縄慰霊の日に急逝。グィディタリア大使夫妻、イエーガー東独大使来宅。

バブル始・・1986＝56歳：母を連れて、インド・ブダガヤ参詣。_カリイ豪大使夫妻来宅。

竹下内閣・・1987＝57歳：_コーヘンイスラエル大使来宅。{日刊福井}に「誰か祖国を愛せざる～沖縄復帰15年に想う」寄稿。

リクルート事件・1988＝58歳：マンスフィールド米大使迎え、大地球儀の福井県への贈呈式。

トイ統一・・1990＝60歳：[Political Economy Journal of India]発刊したマハジャン博士に1000ドルの祝儀送る。

バブル崩壊・1992＝62歳：静岡大仁の参禅道場で瞬間調身法治療。_京都産業大学を退職。楊中国大使夫妻来宅。

55年体制終・1993＝63歳：_外部から遮断目的で、自宅外壁高くし「千早城」と称し、天照大神ご神体拝受。膀胱痛の告知。子を義絶。自社と連立。沖縄慰霊の日式典に参加、知事宛書状。交通事故で入院。*{他策ナカリシラ信ゼムト欲ス}公刊し、沈黙。

村山サリン事件・1995＝65歳：樞原神宮紀元祭、沖縄全戦没者追悼式参列。最初の遺言公正証書。NHK「沖縄返還・日米の密約」放映。

・・・・・1996＝66歳：硫黄島訪問。沖縄県与那国島で著作の英訳版序文執筆。伊勢神宮参拝後、入院。2通目の遺言公正証書作成。_病身鞭打ち、沖縄摩文仁の国立全戦没者墓苑等参拝後、自宅に戻って、没した(自決といわれる)。

後藤乾一「“沖縄核密約”を背負って、